

キラリ!サステナビリティ活動

常葉大学附属橘高等学校にて

ESDプロジェクトを実施しました! ~サステナブルファッションについて考える~

三井住友信託銀行は2023年1月、第20回ESD^{※1}プロジェクトとして、常葉大学附属橘高等学校英数科1年生約40名に「サステナブルファッション」をテーマとした特別授業「持続可能なファッション業界から、エシカル^{※2}消費を考えよう」を提供しました。同校では3年間、総合学習の時間をういたキャリア教育を実施しています。

当日は、担当の水口教諭が、本プロジェクト提供の映像教材3本を使用してファッションを取り巻く世界と日本の現状と問題点について解説しました。安価な洋服を作るために日本から遠く離れた土地の資源や労働力が使われ、深刻な環境汚染とそれに起因する水不足や貧困などの社会問題を生み出していること、環境に悪影響を与えない取り組みに注力するブランドが出てきている

こと、国内各所で「地域でモノを循環させる」というエシカル／サステナブルな視点を広めている会社があることなどを学んだ生徒の皆さまは、「自分たちにできること」をテーマに活発な意見交換を行いました。

今後、この授業を起点に地域の中でのマイアクションや将来の自分の職業選択を考える授業が展開されます。生徒の皆さまが静岡の未来の担い手として「SDGsの観点を持って自ら社会課題を探究し、解決方法を思考し、地域と協働しながら自主的に行動・発信する人材」に成長されることを願います。



映像教材を視聴する生徒の皆さま

※1 持続可能な社会づくりの担い手を育む教育 ※2 人や地球環境、社会、地域に配慮した考え方や行動



SuMi TRUST With You



SPECIAL TOPIC スペシャルトピック

気候変動問題に対して 私たちができること

地球にも人間にもやさしい
Well-being な住まい

キラリ!サステナビリティ活動

常葉大学附属橘高等学校にて
ESDプロジェクトを実施しました!
~サステナブルファッションについて考える~

廃棄をなくそう!

カレーでおいしく食品ロス削減

豆腐とキャベツのカレー

廃棄をなくそう!

カレーでおいしく食品ロス削減



豆腐とキャベツの カレー

“カレーでおいしく食品ロス削減”を提案するハウス食品グループの『もっとカレーだからできることプロジェクト』から、ご家庭で余りがちな「豆腐」「キャベツ」をおいしく食べられるカレーのレシピをご紹介します。

材料(6皿分)

ハウス
パーモントカレー
＜中辛＞ … 1/2箱(115g)
豚ひき肉 … 150g
豆腐(木綿) … 1丁(300g)
玉ねぎ … 中1・1/2個
にんじん … 中1/4本
キャベツ … 1/6個
サラダ油 … 大さじ1
水 … 800ml

作り方

- 1 豆腐は水切りし、一口大に切る。玉ねぎ、にんじんはあらみじん切りにし、キャベツはざく切りにする。
- 2 フライパンにサラダ油(大さじ1/2)を入れ、1の豆腐を入れて中火で熱し、両面焼き色がつくまで焼き、取り出す。
- 3 フライパンにサラダ油(大さじ1/2)をたし、玉ねぎ、にんじんを中火でよく炒める。玉ねぎがすき通るまで炒めたら、豚ひき肉を加えてくずし過ぎないように、肉の色が変わるまで炒める。
- 4 炒めた具材を端に寄せ、1のキャベツを入れ、あまり動かさないように弱火で約2分焼いたら、上下を返し、さらに1分焼く。
- 5 水を入れ沸騰したらいったん火を止め、具材を寄せて空いたスペースにルウを割り入れて溶かし、再び弱火で時々かき混ぜながらとろみがつくまで約5分煮込む。最後に2の豆腐を入れひと煮立ちさせる。

使用した商品



もっとカレーだからできること
プロジェクト

レシピ提供:ハウス食品グループ本社(株)
※禁無断転載



表紙の
作品解説

次世代が描く SDGs

豊橋市立老津小学校

「とよはしの海で水中たんけん」

三井住友信託銀行豊橋支店では、「駅前の信託さん活動」と称して地域社会の皆さまと連携しSDGsの目標達成に向けた活動に取り組んでいます。豊橋市は530(ゴミゼロ)運動発祥の地として、地域住民・事業者・行政が一体となって環境保全活動を展開しています。また、市内小中学校は、地域に根ざした特色ある教育活動を行っています。

豊橋市立老津小学校では、地域産業である農業をテーマに、環境保全について学んでいます。表紙の作品は、豊橋の海を水中探検する様子を紙版画という技法で描いたもので、「いつまでもいろいろな生きものがいる海で遊びたい」という願いが込められた光や透明感あふれる作品です。次世代を担う児童の皆さまに、地域の将来を考える機会として、出品いただきました。



豊橋支店の530運動の様子



豊橋市立老津小学校児童作品「とよはしの海で水中たんけん」

当社のサステナビリティ活動はこちら ▶

サステナビリティサイト



支店ブログ



気候変動問題に対して私たちができること

地球にも人間にもやさしいWell-being な住まい



執筆者 人生100年応援部 谷口佳充

三井住友信託銀行は、事業を通じた社会・環境問題の解決に取り組んでいます。特に、昨今話題となっている「気候変動問題」については、問題解決に向けた専門チームや組織を社内に設置するなどしており、非常に重視しています。今年度は計4回、この「気候変動問題」に関わる動向について、社内の専門家が分かりやすく解説します。最終回となる第4回は、最も身近な「住まい」を取り上げました。住まい方の工夫がどう気候変動問題やWell-beingにつながるのか、是非ご一読いただき、より良い生活について考えていただけたら幸いです。

● 日本の住まいが抱えるリスク

突然ですが、脱衣室が寒い、廊下もトイレも寒い、部屋の中でも床が冷たい、そう思いながら暮らしておられる方はいらっしゃいませんか？世界基準で見ると、WHOは「冬の最低室温18℃以上」を強く推奨していますが、皆さまのご自宅やご実家は冬場、すべての部屋で18℃を保っていますか？

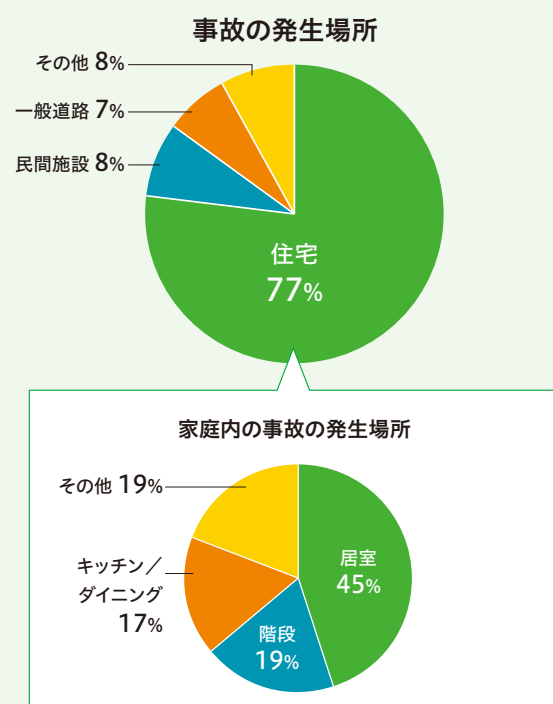
住まいの寒さは住む人の健康に大きな影響を及ぼします。例えば、生活習慣病で見ると「室温が10℃下がると、血圧が10mmHg上がる」といわれています。コレステロールについても「居間が18℃あっても脱衣所や廊下が18℃未満の家では脂質異常症になる確率が1.46倍」に上がってしまいます。そして、睡眠の質についても「寒い住まいでは寝つきが悪くなって途中で目覚めてしまう、夜間頻尿のリスクも大きくなる」といわれています。頻尿になると夜中に暖かい布団の中と寒いトイレとの往復回数が増えます。その温度差が血管を収縮させ、血管へのストレス増にもつながります。

「人生100年時代」といわれる現代、私たちは還暦を迎えても、そのあとに40年以上の人生があります。今まで子育て中心の建築を優先してきた日本の住まいは、長くなった人生後半戦のための作りにはなっていないのが実状です。図表1にある通り、高齢期に事故に遭っている場所は、実は多くが自宅の中です。しかしながら私たち

は今まで、要介護認定を受けてから介護保険の範囲で手すりを付けるといった対症療法のようなリフォームしかしてきませんでした。その結果、住まいで事故が発生し、本意な老後を迎えることになってしまっている方もいらっしゃいます。

自宅の中の事故の例で多いのは、老眼では判別しづらい小さな段差があって転びやすく「予期せぬ転倒で

● 図表1 高齢期(65歳以上)の事故の発生場所



(出典) 独立行政法人 国民生活センター「医療機関ネットワーク事業からみた家庭内事故～高齢者編～」(2013年3月28日)

大腿骨を骨折した」、個室ごとに冷暖房をつけているため、部屋を移動すると温度差が大きく「ヒートショック(心疾患など)になった」、といった事例です。特に後者は、断熱材が薄い、気密性能が低い、窓も1枚ガラスのアルミサッシといった住まいで危険度が増します。これらに関連し、寒い住まいでは活動量自身が減少し、認知症になる確率も要介護になる確率も上がります。部屋が各々独立し、家族団らんスペースが限定的な家の中では孤立状態になりやすく、地域とも家族とも会話が少なくなりがちです。

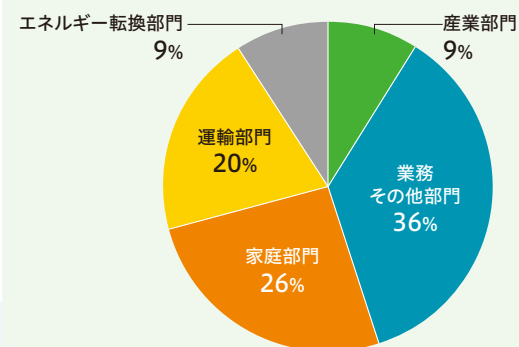
● 暖かい住まいでWell-being向上を

国土交通省の調査では、バリアフリーや省エネ基準を満たしている家は、人が住んでいる住宅のうち5%もない、という結果が出ています。寒い住まいに暮らしていると、「生活満足度」が低くなるという調査結果もあります。断熱性能を高めた暖かい住まいにすることは、これまで述べてきたさまざまなリスクを回避でき、健康面からみても、生活満足度から見ても、たくさんの良い効用があることが期待できます。これは長期的に見ても人生の日々刻々で見てもとても大切なことで、暖かい住まいは総合的に「Well-beingを向上させる」といえるでしょう。

● 高性能な住宅は省エネも実現

さらに、暖かい住まいは地球のWell-being 向上にも貢献することができます。図表2にある通り、日本のCO₂削減目標のうち26%は家庭部門、すなわち住まいが受け持っています。

● 図表2 地球温暖化対策計画における温室効果ガス削減目標のシェア



(出典) 地球温暖化対策計画(平成28年5月13日閣議決定)全体版p.11より作成

気候変動問題に対して私たちができること

これまでの連載一覧

1 気候変動問題って何？ 私たちにどう関係しているの？

2 蓄電池と水素が地球を救う

3 プラスチックとの上手な付き合い方

4 地球にも人間にもやさしい Well-beingな住まい

近年、「ZEH(ゼッチ:Net Zero Energy House(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス))」に注目が集まっていますが、これは家庭で消費するエネルギーを自給だけで賄えるよう、断熱性と高効率の住宅機器、再エネ・創エネ(太陽光発電など)の設備を備えた住まいのことで、脱炭素社会の実現に直結しています。政府は2030年度までに新築住宅のZEH化100%を目指しており、減税制度・補助制度、住宅ローンの融資条件や金優遇など、各種支援策を講じています。

● 私たちにできること

あなたとあなたの家族がより良い人生100年を迎えるため、よりよい住まいに暮らすことはとても大切なことです。特に人生後半の住まいの選択はとても重要で、住宅を建築したまま放置せず、「転ばない、孤立しない、暖かい住まい」に暮らせるよう、対策を講じる必要があります。今の住まいをリフォームするのか、建て直すのか、引っ越すのか…住まいの専門家に相談したり各種制度を活用したりしながら、適切なタイミングで選択していきましょう。「暖かで快適な住まいに暮らすこと」は、健康とWell-beingの向上につながり、気候変動の抑止にも貢献できる優れた「私たちにできること」です。

4回にわたる気候変動をテーマとした連載はいかがでしたか。気候変動は、非常に難しく大きな問題ですが、私たち一人ひとりが自分の行動を見つめ直し、よりよい製品や生活を選択することにより、サステナブルな社会の実現に近づくことができます。当社のサステナビリティの取り組みは各種レポート・Webサイトで紹介していますので、是非ご覧ください。

三井住友トラスト・ホールディングス
サステナビリティレポートはこちら

<https://www.smth.jp/sustainability/report>